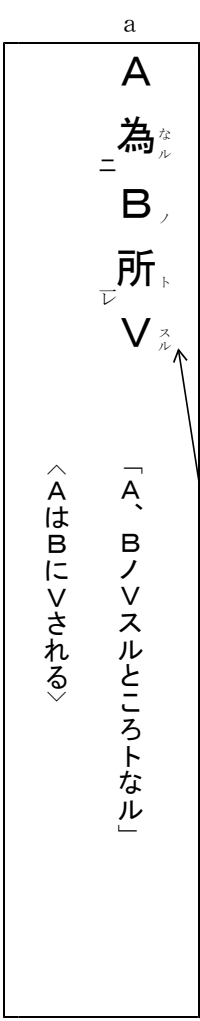


第三講 受身・使役

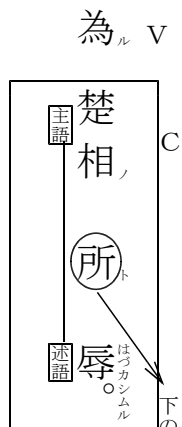
一 受身 以下の形と読み・訳し方を覚えよ



為^ル 楚^ノ 相^ト 所^ト 辱^{ハツカシムル}

〈楚国の大臣に侮辱された。〉

成り立ち……実は、この構文は文法的に受動態ではない



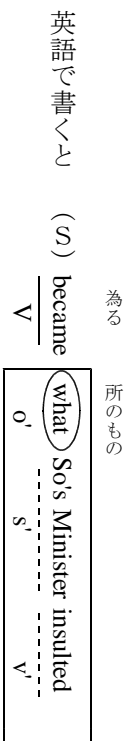
為^ル X^ト

〈Xになる〉

↓意識して受身になる

魚^{ウオハ} 我^ノ 所^ト 欲^{ハツスル} 也。

〈魚は私が欲しかったものである。〉



コレは受動態ではない
直訳へ(Sは) 楚国の大臣が侮辱するところのものになった
意識へ(Sは) 楚国の大臣に侮辱された

注意

句法は「何形から返って」と読む」
というような覚え方をすること
この講座では動詞はサ変で代表させ、
セ||未・シ||用・ス||止・スル||体・
スレ||已・セヨ||命とする。

b 助動詞を使った受身

b

見^{みる}
二
- V^{サセ}

「Vする・せらる」へVされる◇

- ・受身の助動詞 「見・被・為・所」 ↓ 「る・らる」と読む
- ・四段活用の未然形（a 段音）に付くとき ↓ 「る」
- ・それ以外の未然形につくとき ↓ 「らる」

信^{ニシテ}而見^れ疑^ハ、忠^{ニシテ}而^レ被^る謗^{セシラ}。
 へ真実を語っているのに疑われ、忠実なのに謗られる。◇

* 為^{ためニ}楚^シ相^ノ所^ヲ辱^{カシメ}。
 a の例文はこの読み方もできる

c 前置詞を使った受身

c

A
V^{セラル}
二
サ^ル

乎^カ 于^ニ 於^ニ

B^ニ

「A、BニVサル・Vセラル」
 へAはBにVされる◇

不信乎朋友、不獲乎上。

友人に信用されなければ、上の者から信任されない。

d 文脈から受身に読む

狡兔死良狗烹。

狡猾しい兎が死ぬと、獵犬も煮殺される。

松柏摧為薪。

松や柏もくだかれて薪となる。

菅仲既用、任政於齊。

菅仲は既に用いられて、政の国政の担当者に任命された。

* 処遇・官位の授与・刑罰に係る字は、受身に読まれる場合が多い。

字	讀み	意味	字	讀み	意味
任	にんぜラル	任命される・役職につけられる	封	ほうぜラル	領地を与えられ諸侯にされる
叙	じよせラル	官位を授けられる	補	ほせラル	官職を授けられる
謫	たくせラル	遠方に流される	誅	ちゆうせラル	罪に問われて殺される

* これらの漢字を暗記して文脈から自分で受身として読むことを要求するような問題は出ないであろう。

*受身とはどういうことか

先生愛生徒
S V O

① 受身にせよ ↓ 生徒見愛於先生
見ラル 愛セ

② ①から前置詞を取れ ↓ 生徒見愛先生
見ラル 愛セ ↓ b

③ ①から助動詞を取れ ↓ 生徒愛於先生
愛セラル ↓ c

④ どっちも取れ ↓ 生徒愛先生
愛セラル ↓ d

〈結論〉bとdは同じだ

*漢文を読んでいて、助動詞「見・被・為・所」や前置詞「於・于・乎」がないのに、受身として「ル・ラル」をつけて読んでいる文があれば、④のパターンだと思って、送り仮名の通りに読んで受身として解釈していけばよい。

二 使役

a 助動詞を使った使役

a 使役の助動詞を「しム」と読み、Bは使役の対象に「ヲシテ」を送る。

A 使_{シム} B ヲシテ Vセ
「A、BヲシテVセシム」 AはBにVさせる

使役の助動詞↓使・教・遣・俾・令↓助動詞「しム」(漢文では「す・さす」は使用しない)

↓上四つは動詞として「つかフ・おしフ・つかはス・めしつかフ」

使_{シム}子路_{ヲシテ}問_ハ之_ヲ。

△子路にこのことを尋ねさせた。▽

b 使役を暗示する動詞を使った使役

b
A 命^{ジテ} B V^ニ 「A、Bニ命ジテVセシム」 〈AはBに命じてVさせる〉

その他
召^{シテ} B V^ヲ 「BヲめシテVセシム」 〈Bを召し寄せてVさせる〉

説^{キテ} B V^ニ 「BニとキテVセシム」 〈Bを説得してVさせる〉

勸^{メテ} B V^ニ 「BニすすメテVセシム」 〈Bに勧めてVさせる〉

*遣^{ハシテ} B V^ヲ 「BヲつかはシテVセシム」 〈Bを派遣してVさせる〉

属^{シヨクシテ} B V^ニ 「BニしよくシテVセシム」 〈Bに頼んでVさせる〉

挙^{ガテ} B V^ヲ 「BヲあげテVセシム」 〈Bを役目に挙用してVさせる〉

命^{ジテ} 豎^ニ 子^ニ 殺^シ 雁^ヲ 烹^{ニシム} 之^ヲ 〈小僧に命じて雁を殺させ、それを料理させた〉 豎子(＝婦子) 〈子供・小僧・青二才〉

*「遣」は↓
遣^{シム} 人^ヲ 討^タ 之^ヲ ・ 遣^{ハシテ} 人^ヲ 討^{タシム} 之^ヲ (二通りの読みが可能)

c 文脈から使役として読むもの①

S V O C

先生^シ 毆^レ熊^ヲ 死^シ。

「先生、熊を毆りて死せしむ」→「先生は熊を毆って死なせた」 「死」↓「リス」（サ変）

主語 述語

兼語式の文↓「先生毆熊」＋「熊死」

A	B	C	D	
	レ	主語	述語	
	シテ	ヲ・ニ	セシム	
				…：上のような兼語式の文の場合、D（動詞）に「シム」を送って
				使役に読む。「A、Cヲ（ニ）BシテDセシム」

↓そう考えると、aもbも同じだ。

d 文脈から使役として読むもの②

死^レ之^ヲ

→これを死なせた

* 「死」に「死」の意味がある

有^リ漂^ニ母^ヲ。見^テ信^ノ飢^レ飯^ヲ。信^ニ。

→古綿を水にさらす老婆がいた。韓信が腹をすかせているのを見て、韓信に飯を食わせた。→ * 「飯」に「食」の意味がある

泣^{カシム}
二 鬼 神^ヲ
一

（鬼神をも（感動の）涙を流させる）

漢文には自動詞の意味と他動詞の意味を持った字や、「人にくさせる」の意味を持った字がある。
日本語に他動詞や「人にくさせる」の意味が無い場合、「シム」を送って使役として読むことになる。

*これも、自分で使役の読みを当てさせるような高度な出題はないであろうから、aとcのパターン以外で使役の読みをしている文に出会った時に、このdのパターンだなどと思って読みの通りに解釈していけばよい。

【演習問題】 次の各文の訓点の不十分な部分を補い、現代語訳せよ。

① 父兄^ハ為^レ戮^{リク}於^ニ楚^ニ。
「戮」↓殺すこと◇ 「楚」↓国名

② 欺^ク人^ヲ者^ハ却^{カヘテ}為^レ人^ニ所^レ欺^レ。

（人をだます者は、かえって逆に、

③ 欺^ク人^ヲ者^ハ却^{カヘテ}為^レ人^ニ所^レ欺^レ。
（現代語訳不要）

④ 令^{リテ}騎^ヲ皆^ハ下^{リテ}馬^ヲ歩^ホ行^{カウ}。
「騎」↓騎兵◇

⑤ 秦王使使者告趙王。

(

)

⑥ 孫權勸呂蒙讀書。

「孫權」↓人名・「呂蒙」↓人名

(

)

⑦ 勞心者治人、勞力者治於人。

(精神を使つて働く者は人を治め、力を使つて働く者は

)

⑧ 吾嘗三仕三見逐於君。「逐」↓「おつ」へ追放する・「君」↓君主

(私はいぜんに三度お仕えしたが、三度とも

)

⑨ 天帝使我長百獸。

「天帝」↓「天の神」・「長」↓「ちよう」↑「統率者」

【演習問題】解答

① 父兄ハ為ラ戮リク於ニ楚ニ。
「戮」↓へ殺すこと◇ 「楚」↓国名

(父と兄は楚で殺された。)

② 欺ク人ヲ者ハ却カ為ナ人ノ所ト欺ク。

(人をだます者は、かえって逆に、人からだまされる。)

③ 欺ク人ヲ者ハ却カ為タ人ノ所ト欺カ。
(現代語訳不要)

④ 令シ騎ヲ皆リ下リ馬ヲ步カ行セ。
「騎」↓へ騎兵◇

(騎兵達に、みな馬から下りて歩かせた。)

⑤ 秦王使使者告趙王。

(秦王は、使者に(を行かせて)趙王に告げさせた。)

⑥ 孫權勸呂蒙讀書。
「孫權」↓人名・「呂蒙」↓人名

(孫權は呂蒙に勸めて、書物を読むようにさせた。)

⑦ 勞心者治人、勞力者治於人。

(精神を使つて働く者は人を治め、力を使つて働く者は人に治められる。)

⑧ 吾嘗三仕三見逐於君。
「逐」↓「おフ」へ追放する・「君」↓へ君主

(私はいぜんに三度お仕えしたが、三度とも君主に追放された。)

⑨ 天帝使^{シム}我^{ワシテ}長^{カラ}百^ニ獸^ニ。
「天帝」↓「天の神」・「長」↓「ちよう」↑「統率者」

(天の神が私をすべての獸の統率者とさせたのです。)